

東京家政大学を核とした北・板橋区の快適な生活空間を 支援するための実践的研究 (I)

—先進事例を参考とした地域連携・産学官連携プロジェクトの試み—

Practical Studies of Supporting for the Comfortable Living Spaces in Kita and Itabashi-wards by Tokyo-Kasei University

—Areas Cooperation and Industry-university-public Cooperation

Projects of referring to Advanced Cases —

中村精二*・大澤力*・越尾淑子*・手嶋尚人*・中村信也*
亀井裕幸*.*2・夏目賢一*.*3・天野正治*.*4・本多大佑*.*5・塩瀬治*.*6

Seiji Nakamura, Tsutomu Oosawa, Toshiko Koshio, Naoto Tejima,
Nobuya Nakamura, Hiroyuki Kamei, Kenichi Natsume,
Syouji Amano, Daisuke Honda, Osamu Shioze

はじめに

東京家政大学は、北・板橋両区にまたがるキャンパスを有している。両区の快適な生活空間を支援するため、これまでにヒューマンライフ支援センター・生涯学習センター・生活科学研究所・家政学部など東京家政大学は様々な働きかけを行ってきており、こうした活動は各分野において良好な評価を得てきている。

そこで、本研究では、これまでの実績を参考とし、両区にとって現在から将来にわたり必要とされる生活空間（福祉・文化・自然・育児）における快適さの向上を目指し、両区の実践事例に関する現状把握とともに国内外での先進事例を参考とした地域連携・産学官連携プロジェクトの実践・啓蒙の要素を含む実践的な研究を

行うものである。

初年度の報告として以下のような内容を実施したことを提示しつつ、今後の展開を示したい。

第一年次の調査・実践活動としては、以下のような内容が上げられる。

●板橋区関連調査：自然環境ネットワークの活用に関する基礎調査

- ・板橋区役所みどり公園課およびエコポリスセンターにて調査
- ・板橋区が実施している自然環境ネットワークの取り組みの実態調査
- ・小学校における自然環境教育の実態調査

●北区関連調査：十条いちょう通り商店街とのアクションリサーチ

- ・街並み活性化のためのフラッグ作成を中心とした東京家政大学学生と商店会のかかわり方についてのアクションリサーチ

●板橋区・北区関連調査：地域の歴史・文化など資源調査

- ・地元居住者だけでは認識されにくい地域の魅力を家政大学学生が再発見し、地域を活性化する資源としてデータベース化を实

* 東京家政大学生活科学研究所
* 2 北区まちづくり推進課
* 3 板橋区緑と公園課
* 4 (株) アイエシー
* 5 石神井川板橋の自然を考える会
* 6 自由の森学園

施。現在、100以上の魅力が再発見されている。

- 全国関連調査：地域活性事例の全国調査
 - ・全国町並みゼミ（全国町並み連盟主催参加および開催地であった美濃の状況調査特に成果があった
- 板橋区・北区関連調査：地域の歴史・文化など資源調査を中心に報告する。
今後の活動展開としては、引き続き基礎調査やアクションリサーチを実施すると共に、将来のキャンパス計画隣地も視野に入れた地域との連携など実施可能な様々な活動に関する考え方や方法も検討対象とする。そして、東京家政大学を核とした活動実態を総合的に把握し、地域のためにも大学のためにも学生のためにもメリットとなる地域連携・産学官連携プロジェクトを展開してゆく。

第一年次研究調査報告

「板橋区・北区関連調査：地域の歴史・文化など資源調査とそのまとめ」

<研究の目的>

板橋区・北区などの歴史・文化などの資源調査を行い、現在から将来にわたり必要とされる生活空間（福祉・文化・自然・育児）における快適さの向上に資する。

<研究の方法>

文献調査・実踏調査を実施し、そこで得られた資料を基に整理・統合しデータベース化を行った。以下にその概要を示す。

(1) 文献調査

・板橋区・北区の生活環境に関する取り組みを各区広報資料、インターネットなどを活用し、整理・統合した。

・本学における総合的学習の時間において学生の協力による調査を実施した。

(2) 実踏調査

・板橋区・北区で地元の歴史と文化に密着し

ている場所、残しておきたい場所、伝えたい場所などを実際に訪れたり、伝統行事などに実際に参加し、聞き取り調査と共に体験的にレポートした情報を活用し、整理・統合した。

<研究の結果と考察>

本学周辺地域の歴史・文化資源等研究結果・まとめ

1. 周辺地域の沿革

江戸時代の十条界限を切り絵図で見ると、十條村、滝野川村、王子村があり、中山道に沿って板橋宿が開け、岩槻街道（日光御成道）上の行楽地であった飛鳥山、滝野川（石神井川）を持つ地の利に恵まれた場所であった。板橋宿に沿って広大な加賀藩前田家の下屋敷（平尾下屋敷）が延宝7年（1679）に設けられ、この一部が現在の東京家政大学の敷地になっている。

板橋宿は、慶長8年（1603）徳川幕府より街道が整備されるに伴い中山道最初の宿場となった。宿場町の全長15町49間（約1700m）の細長い町並みで、江戸方面から平尾、中宿、上宿の3つに分かれており、現在の滝野川と板橋1丁目の境から環状7号線に至る範囲に及んでいた。JR板橋駅付近には2丁目の一里塚があった。この宿は江戸の町境でもあり、当時は大木戸と呼ばれた簡単な関所を開いて出入りを固めた。

王子付近は徳川吉宗が將軍になると観光化が進められ、享保5年（1720）から1000本以上の桜が飛鳥山に植えられ、桜の名所として江戸市民に広く開放された。また、滝野川溪谷にも紅葉が植えられ、王子稻荷詣での人々も加わり年間を通じてにぎわう行楽地となった。

主な二つの街道に加えて、池袋村に通じる雑司ヶ谷道、金剛寺の弁天不動に通じる不動道、江戸三十三ヶ所の寿徳寺への参詣道など、滝野川村に連なる小街道が多く残されている。

近来には石神井川の水を水力に使用すること

が着目され、紡績工場、製紙工場（王子製紙）の近代産業が育成された。明治政府は西ヶ原一帯にあった幕府用地を官有地とし、滝野川周辺をも併せて養蚕業を育成した。

同時にこの地域には軍事関連の施設が設けられていった。明治政府は明治5年に赤羽台に火薬庫を作り、続いて明治9年、滝野川にベルギー製の粉碎器により黒色火薬を製造する板橋火薬製造所分工場を加賀藩下屋敷後の3万坪に設立した（現在の東京家政大学の地域）。この工場はその後拡張を重ね、陸軍板橋火薬工場となり、第二次世界大戦中には陸軍第二造兵廠となった。また、隣接する現在の中央公園一帯には、明治38年に兵器、弾薬、火薬類を製造する陸軍造兵廠（東京工廠）が作られ終戦まで使用された。さらにその周辺の地域にも、東京第一陸軍造兵廠滝野川工場、東京第二陸軍造兵廠王子工場が加わり、十条一体は軍事関係施設が集中する一大軍都となっていった。

地域の開発とともに鉄道網が整備された。明治13年の地図には貨客船の品川線が十条と品川を結んでいる。明治16年には高崎線の上野～熊谷間が開通し、王子駅が開業した。続いて明治18年に東北線、山手線が開通したが、当初は田端～赤羽～池袋を循環した。明治36年に田端～池袋間が開通し現在の経路となった。板橋駅は明治18年に、十条駅は明治43年に開業した。中山道の人や物の流れが移動することとなり、板橋宿は衰退した。

軍事関連企業の集中、通勤の利便性により住宅も増加し、この地域の開発は進展した。しかし、戦争末期には軍事施設への空襲が激しく、B29による絨毯爆撃が執拗に繰り返された結果、近代工業発祥の地である多くの周辺地域は焦土と化した。

戦後、軍需工場の跡地には平和な新しい時代を求めて、公園などの公共施設、東京家政大学などの学校、多くの人々の生活の場となる住宅団地群が作られ現在の年を形成している。

本学の校地や周辺地域には、以上の歴史をと

どめる歴史、文化資源が現在も多く残され、未来の歴史、文化遺産としての資源を形成している。

2. 実態調査の結果

本年度、地域の歴史・文化等資源の調査は、本学を中心に約2kmの範囲を基準に実施した。調査員は研究員及び本学学生である。調査対象は、史跡等、社寺、歴史的建造物、無形文化財、公共施設（美術館・博物館）、商業施設等、街道・河川等に分類され、約100例余りを採集した。

- 1) 史跡等 名主の滝公園、地蔵坂等史跡、有形文化財、軍事関連施設遺跡等を採集した。（表1 史跡等）
- 2) 社寺 王子稻荷、縁切り榎など、主に江戸時代の神事や、民間信仰を伝え、地元居住者の生活に密着している例を採集した。（表2 社寺）（写真1 縁切り榎奉賛式）
- 3) 歴史的建造物 北区中央公園、文化センター（旧陸軍第一造兵廠本部）、愛誠病院（旧陸軍第二造兵廠板橋工場建物）等を採集した。（表3 歴史的建造物）（写真2 東京家政大学58号棟）
- 4) 無形文化財 富士神社の山開き大祭、王子神楽などを採集した。（表4 無形文化財）
- 5) 美術館・博物館 紙の博物館、自然ふれあい情報館等を採集した。（表5 美術館・博物館）
- 6) 商業施設 長年親しまれてきた商業施設を採集した。（表6 商業施設）
- 7) 街道・河川等 王子新道、石神井川等を採集した。（表7 街道・河川等）

以上に今年度採集した地域の歴史・文化等に関わる資源を分類して示した。江戸時代の歴史・民俗を良く伝える例、軍国時代の地域を良く伝える例などが多く残されていることがわかる。これらの採取例に加え、さらに膨大な資源が残されているので、さらに探求を続ける必要がある。

る。また、採集例に未調査分も加えて家政大学周辺マップにプロットした。(図1、図2 東京家政大学周辺マップ)

将来的には、これらをデータベース化しオープンエアミュージアムとして活用すること、施設や所要時間を加えた様々な地域ルートマップを作成する事などにより、本学周辺地域の活性化に役立てる事ができる。

これらに加えて、今回は報告していないが、自然、食育、町づくりを含めた研究活動を積み重ねる事により、本プロジェクトの目的である地域連携・産官学連携プロジェクトの実践・啓

蒙的な実践的研究が遂行されるものと期待される。

参考文献

- 奥山正 1987 加賀藩江戸下屋敷 「加賀藩下屋敷」刊行会
 児玉幸多 監修 1994 復元・江戸情報地図 朝日新聞社
 板橋区教育委員会 1976 加賀下屋敷跡払下文書
 新編武蔵風土記稿 1822 卷之十七豊島郡之九

表1 史跡等

レンガ塀通り	北区西が丘3-2	東京入国管理局第2庁舎の南側にあるレンガ塀は、明治39年に設立された東京陸軍兵器補給廠の名残を今に伝えている。東京陸軍兵器補給廠は、現在の西が丘3、4丁目全域に広がる大施設で、かつては施設全体を囲む形で、高いレンガ塀が巡らされていた。現在では、通りに沿って50メートルほどが残っているだけですが、在りし日のたたずまいが感じられる。 また、長い年月を経たレンガ造は、味わいのある雰囲気醸し出すということで、保存を望む声も多く、大切にされている。
赤羽台第3号古墳石室		東北新幹線工事にともなう発掘調査により発見された、今から約1400年前の古墳時代に作られた横穴式石室。ほかに十数基の古墳、横穴墓群、多数の竪穴住居跡が見つかっている。 北区の歴史を知る上で貴重な資料であるため、石室をそのまま切り取って移設し、展示されている。北区指定有形文化財(考古資料)
静勝寺除地検地絵図・古文書		赤羽西にある静勝寺に伝存した文書群で、近世文書68点が「静勝寺除地検地絵図・古文書」として平成5年に北区指定有形文化財(古文書)に指定され、近代文書152点が「静勝寺近代文書」として平成4年に北区指定有形文化財(古文書)に台帳搭載されている。静勝寺境内一帯は、太田道灌が築城した「稲付城」跡だった。区指定有形文化財のうち、貞享4年(1687)の静勝寺除地検地絵図は、城塁配置を知ることができる最も古い絵図で、境内や付近の地形、稲付城の空堀の遺構が描かれている。当時の静勝寺の様子を知る上で貴重な資料である。
中里遺跡出土丸木舟	北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館	都内で唯一出土した縄文時代の丸木舟がある。北区指定有形文化財に指定されている。 貝塚の南側には「中里遺跡」と呼ばれる遺跡があり、新幹線の線路敷設に伴う調査で発見された中里貝塚と同じ頃の多数の土器や魚網のオモリ、集石遺構、丸木舟などを見ることが出来る。

名主の滝公園	北区岸町 1-15-15	<p>江戸・安政年間（1854～1860）に王子村の名主「畑野孫八」が屋敷内に一般に人々が利用できる避暑のための施設としたことにはじまる。「名主の滝」の名前の由来もここから来た。明治の中頃、垣内徳三郎の所有になってから庭園として整備された。昭和13年には、株式会社精養軒が買収し、食堂やプールなどが作られ公開され続けてきたが、昭和20年4月の空襲により焼失し、昭和35年11月東京都によって再公開されるようになった。現在は区の施設である。</p> <p>武蔵野台地の突端である王子近辺には滝が多く、かつて「王子七滝」と呼ばれる7つの滝があった。このうち「名主の滝」だけが現存する唯一の滝となっている。「名主の滝」は、区内でも有数の8メートルの落差を有する男滝（おだき）を中心とする女滝（めだき）・独鈷の滝（とっこのたき）・湧玉の滝（ゆうぎよくのたき）の4つの滝からなる。現在は自然の湧水は消滅し、井戸水を揚水している。これらの滝とケヤキ・エノキ・シイ、そして100本余りのヤマモミジが植えられた斜面を巧みに利用して自然の風景を取り入れた回遊式庭園である。人工養殖していたが井戸水により一部自然発生もしている、平家ホテルの鑑賞会が7月14、15日に行われる。観察会は夜間のため6月下旬に往復はがきで北区へ申し込み（抽選）が必要である。</p>
地蔵坂	北区中十条 2-9	<p>地蔵坂は、この坂の上の三叉路で合流し、ここを通過して下る坂道で、現在の中十条2-11-1地先付近までが崖で、坂道は崖の手前の地蔵堂から続いていたので地蔵坂と呼ばれていた。東十条駅のすぐ西側にあり、蛇行しながら登る坂道。</p>
地蔵堂（子育て地蔵）	北区中十条 2-9	<p>現在の地蔵堂は、東十条駅の開設にともなう跨線橋の設置や道路の拡幅により今の位置に移転した。左側の石碑横には、右練馬みち。左豊島みちと案内がある。</p>
山崎庚申塔	王子第三小学校付近	<p>姥ヶ橋から環七通りを東に進んで王子第三小学校のバス停の先の路地を入る。庚申塔はかつて旧家山崎家の屋敷神として祀られていて、戦後現在地に移された。山崎家では明治の頃銀座の時計店玉屋合名会社の従業員用社食に食べる時期に合わせ10段重ねの樽にそれぞれ糠と塩の量を替えて沢庵漬を請け負って漬け込んだ。</p>
平井保昌の杉跡	北区東十条 1-7-11	<p>平井保昌とは源頼光につかえた武士で、渡辺綱や坂田金時など「四天王」と共に世に知られた人物である。伝説によれば、保昌が東国を巡視した時、十条の崖下を通り、岸村の波打ち際で昼食をとったのだが、箸がなく杉の小枝を代わりに使用した。使い終わった箸を地面にさし「源氏万代に栄えるものならば、この箸、根や葉を生じて繁茂せよ」と念じたら小枝は幹の周りが3メートルもの巨木になったといわれている。この杉は明治43年に嵐で倒されたが、これを惜しんだ村人が碑を建てた。石碑は、新幹線建設工事により現在地に移設された。</p>
旧古河庭園	北区西ヶ原 1丁目	<p>この庭園はもと明治の元勲・陸奥宗光の別邸であったが、宗光の次男が古河財閥の養子になった時、古河家の所有となり、戦後、国へ所有権が移ったが、地元の要望などを取り入れて、東京都が国から無償で借り受け、一般公開された。現在の建物は古河家のものであった頃の建物である。</p> <p>現在の洋館と洋風庭園の設計者は、旧岩崎邸庭園洋館、鹿鳴館、ニコライ堂などを設計した、英国人ジョサイア・コンドル博士（1852～1920）によるものである。庭は、武蔵野台地の斜面という地形を活かし、北側の小高い丘には洋館を建て、斜面には洋風庭園、そして低地には日本庭園を配した特徴がある。</p> <p>日本庭園の作庭者は、山県有朋の京都別邸である無鄰庵、平安神宮神苑、円山公園、南禅寺界隈の財界人の別荘庭園などを作庭した、小川治兵衛（1860～1933）である。</p> <p>数少ない大正初期の庭園の原型を留める貴重な存在で、昭和57年8月4日に東京都文化財に指定された。</p>

<p>殉職慰霊碑</p>	<p>北区十条台 1-4</p>	<p>東京第一陸軍造兵廠十条工場の跡地の北東隅に工場の鎮守である四本木稲荷神社が祀られていたが、神社は滝野川へ移り、現在は稲荷公園となり、この殉職慰霊碑だけが残っている。大戦時に殉職した労働者のために建てられたものと思われるが、そのいわれが書かれていた「碑板」がなくなってしまった。碑には「殉職者慰霊碑」「陸軍造兵廠東京工廠長杉本春吉謹書」とある。</p>
<p>王子大坂</p>	<p>北区王子本町 1-7-1 地先</p>	<p>飛鳥山（あすかやま）に沿って東におりた岩槻街道（いわつきかいどう）は、石神井川（しゃくじいがわ）を渡って左に曲がり、現在の森下通りを抜け、三本杉橋の石の親柱（おやばしら）の位置から北西に台地を登る。この坂が王子大坂である。 岩槻街道は江戸時代、徳川將軍の日光社参の道で日光御成道と呼ばれた。登り口に子育地藏（こそだてじぞう）があったので地藏坂とも呼ばれ、昔は縁日（えんにち）でにぎわった。また、坂の地形が、海鳥の善知鳥（うとう）の嘴（くちばし）のようなので「うとう坂」の名もある。</p>
<p>自衛隊十条駐屯地</p>	<p>北区十条台 1-5-70</p>	<p>明治 38 年に陸軍が板橋火薬製造所に隣接する現在の十条台の畑・雑木林約 10 万坪を買収し、東京砲兵工廠銃砲製造所を小石川から移転開設した。 昭和 15 年に北区側（滝野川工場・王子工場等含む）を第一陸軍造兵廠東京工廠（以後一造と呼ぶ）、そして板橋区側を東京板橋陸軍第二造兵廠（以後二造と呼ぶ）に組織変更された。 戦後は米軍の使用を経て、昭和 34 年に自衛隊に移管され、武器補給処十条支処を主体に使用された。平成 9 年度、防衛庁本庁庁舎移転計画により、海上自衛隊、航空自衛隊及び調達実施本部が十条駐屯地に再配置されるとともに、平成 10 年 3 月陸上自衛隊補給統制本部が新編され、陸上・海上・航空・契約本部が共存する全国でもまれにみる駐屯地・基地となった。 十条駐屯地には、全国の自衛隊が国防、災害派遣、国際貢献等の任務を達成するために必要不可欠な物（装備品等）の調達、保管、補給または整備及びこれらに関する調査研究等の事務処理を行う部隊が所在している。正門等に使用されている赤煉瓦は、かつて工場の壁面に使用されていたものを再利用したものである。 十条自衛隊盆踊り大会が 7 月の第 4 金曜日・土曜日にあり、近隣住民にも解放される。</p>
<p>西ヶ原一里塚</p>	<p>北区西ヶ原 2-4-2 地先</p>	<p>慶長九年（1604）二月、江戸幕府は、街道の道程を示す目安とするために、江戸日本橋を基点として全国の主要街道に一里塚を築くことを命じた。 西ヶ原一里塚は、本郷追分の次の一里塚で、日本橋から日光御成道での二番目の一里塚にあたる。都内の日光御成道は現在の本郷通りが主要なルートにあたるが、岩淵宿から船で川口宿に渡ると鳩ヶ谷・大門・岩槻の各宿場を北上して幸手宿で日光街道に合流した。將軍が日光東照宮に社参する際の専用街道として使用されたので、この名称が定着したが、岩槻藩主の参勤交代や藩の公用通行路に使われたので岩槻街道とも称された。 旧道をはさんで一対の塚が現存しているが、これは旧位置に保存されている都区内唯一の一里塚で貴重な文化財だといえる。南側の塚には大正 5 年に建てられた「二本榎保存の碑」と題される記念碑がある。塚と榎は当時、東京市電の軌道延長路線上にあたり、この工事に伴う道路改修工事で撤去されそうになったが、渋沢栄一や東京市長・滝野川町長を中心とする地元住民の運動によって保存に成功したことが刻まれている。西ヶ原一里塚は、大正時代に文化人と住民が一体となって文化財の保存に成功した例としても記念碑的な意義をもつものといえる。</p>

赤羽台第3号古墳石室	北区中央公園内(移築)	<p>石室は、今から約1400年前の古墳時代に作られた横穴式石室で、現在は、石積みが二段しか残っていないが、当時は数段積み、その上に天井石をのせたものと推定されている。石材は、凝灰質砂岩で海浜の自然石を用いたものである。また床面には全面に小石が、一部にカキ殻も敷かれていた。ほかに十数基の古墳、横穴墓群、多数の竪穴住居跡が見つかっている。</p> <p>北区の歴史を知る上で貴重な資料であるため、石室をそのまま切り取って移設し、展示されている。北区指定有形文化財（考古資料）</p> <p>石室の中には、人骨とともにガラス玉・碧玉製の管玉・耳飾りなどの装身具と直刀・矢の先に付けられる鉄鏃などの武器類が、副葬品として納められていた。移築前は星美学園内にあった。</p>
馬坂	北区中十条 3-34-23 地先	<p>昔は低地の 村々から板橋宿へ通じる急坂で、坂下に荒沢不動の池があった。この道は姥ヶ橋地蔵尊（うばがばしじょうそん）の東で王子へ通じる稲荷道と交差し、御成橋を経て板橋宿に至る。坂の名は地形が馬の背に似ていたからともいう。付近の都市化と環状七号線の開設で役割も形状も著しく変化してした。旧道は平和橋手前を下っていた。</p>
乗蓮寺跡	板橋区仲宿 62	<p>徳川家康より寺領 10 石を認められた浄土宗の朱印寺。鷹狩の際の、将軍の小休所、御膳所にもなった。</p> <p>「江戸名所図会」の挿絵（表・挿絵）に門前の景観が描かれている。明治期には、板橋警察や、板橋第1小学校の前身がおかれたが、昭和46年（1971）首都高速5号線の工事により赤塚へ移転。</p>
加賀公園	板橋区加賀 1	<p>板橋区加賀から板橋3, 4丁目にかけて21万坪余りに及ぶ加賀藩下屋敷があった。加賀藩はこの下屋敷を別荘の他、参勤道中での立ち寄り、狩猟や園遊会などに使用した。幕末は練兵場や大砲製造の場所となり、戦後は払い下げにより、学校や病院などになった。</p>
加賀前田家下屋敷跡石碑	加賀公園内	<p>板橋区加賀から板橋三、四丁目にかけて21万坪余りにも及ぶ加賀藩下屋敷があった。ちなみに上屋敷は本郷、中屋敷は駒込にあり、いずれも旧中山道に沿っていた。上屋敷は藩主やその家族が住み、中屋敷は隠居した藩主や 嗣子などの住まい、下屋敷は別荘として使われていた。</p> <p>加賀藩ではこの下屋敷を別荘のほかに、参勤道中での立ち寄り、狩猟や園遊会などに使用した。現在加賀公園にその史跡の碑がある。</p> <p>明治以後、陸軍の火薬製造所が建設され、石神井川からの分水を利用した水車を設置し、製造所の圧磨機を動かす動力源とした。その『圧磨機圧輪記念碑』が東板橋体育館横の西加賀公園にある。</p>
圧磨機圧輪記念碑	板橋区加賀 1-10	<p>明治以後、陸軍の火薬製造所が建設され、石神井板橋火薬製造所（加賀下屋敷跡・現加賀町一帯）の創設者というべき澤太郎左衛門の遺徳を称え建てられた記念碑であるが、実際に火薬製造に用いた圧輪を使用している。</p> <p>この圧輪は、幕府の命により太郎左衛門が慶応三年（1867）ベルギーで求めたもので、明治九年（1876）より同三十九年（1906）まで黒色火薬を製造していた時に使用されていた。</p> <p>黒色火薬（現在、花火などに使われている）は、硫黄と木炭を混ぜ、次にこれに硝石と混ぜてつくる。この三種の混合剤を圧磨機の盤上に敷いて水を注ぎながら圧輪を回転させ圧磨作業を行う。この圧輪を稼働させるため鉄製の縦軸水準（ベルギー製現存せず）が用いられたが、その動力源に石神井川からの分水を利用した水車を設置し、製造所の圧磨機を動かす動力源とした。この圧磨機が設置された場所は定かでないが、加賀下屋敷内にあった加賀水車跡地（現加賀二の十五）付近ではないかと考えられている。</p> <p>板橋区登録文化財。</p>

板橋宿本陣跡	板橋区仲宿 47-12	現在は仲宿のライフストアになっている場所である。 本陣とは、江戸時代の宿場で大名公家などの貴人が休泊した宿で、門、玄関、上段の間を持ち、その家は苗字帯刀を許された。 板橋宿では、飯田家が代々本陣役を務めた。参勤交代大名 30 家をはじめ、皇女和宮や東山道軍が宿泊した。
板橋町役場跡地	板橋区仲宿 44	今から約 130 年前、政権が江戸幕府から明治政府に交代し、今の板橋区域に存在した江戸期の村々は武蔵知県事の管轄下におかれた(明治元年 1868 年)。その後翌明治 2 年に大宮県の所属、明治 4 年に東京府へ編入、明治 7 年「大区小区制」により第八大区七小区・第九大区四～六小区編入、明治 11 年「群区町村編成法」により東京府北豊島群編入を経て、明治 22 年(1889 年) 5 月 1 日、「町村制施行」に伴い板橋区域に板橋町、上板橋村、志村、赤塚村の 1 町 3 村が誕生した。 そのうち板橋町は、それまでの下板橋宿、金井窪村、中丸村と、滝野川村・池袋村・上板橋村の一部が合併して成立した。この時板橋町役場は、それまで戸長役場であった大字下板橋 2128 番地(現仲宿 55・56 あたり)の民家を借りていたが、明治 30 年(1897 年) 7 月に移転した。 その後、昭和 7 年(1932 年) 10 月 1 日、「市群併合」により東京市に編入され板橋区が誕生するまでの 35 年間、板橋町役場はこの場所にあった。 現在は、仲宿ふれあい広場になっている。仲宿商店街の中心部に近い。
高野長英ゆかりの地 (旧水村玄洞宅)	板橋区仲宿 56-15	幕府の対外政策を批判し、永牢の身となった蘭学者高野長英(1804～50)は、弘化元年 6 月晦日小伝馬町獄舎の火災による切り放しのときに脱獄、そして逃亡した。 出牢後 1 ヶ月は幕府の厳しい探索にも拘わらず消息不明であったが、7 月下旬のある夜、彼の門人である医師杉村玄洞宅を訪れた。玄洞は一両日長英を奥座敷にかくまい、7 月晦日の深夜には北足立群尾間木村に住む同門で実兄の医師高野隆仙宅へ人をして逃れさせた。長英はその後逃亡生活を続け、再び江戸に舞い戻ったが、隠れ家を幕吏に襲われ自殺した。
文殊院	板橋区仲宿 28	この御本尊の文殊菩薩像は区の文化財に指定されている。
近藤勇と新撰組隊士の墓	北区滝野川 7-8-1 寿徳寺境外墓地	新撰組隊士永倉新八が発起人となり、旧幕府典医松本順の協力を得て、明治 9 年に建てられた。新撰組の祭祀を目的とする最初期の供養塔である。側面には 110 名の新撰組に関わった人々の名が刻まれている。

表 2 社寺

西音寺聖観音堂	北区上十条 3-25-2	雪峰院の門に向かって右側に小さいお堂がある。中には山下覚道作という中国風の観音像が安置されている。天明三年(1783)の大日如来像(金剛界のもので智拳印を結ぶ)、数多くの蛇を両手に持つ延宝五年(1677)の庚申塔他、数基の石仏がある。
雪峰院	北区上十条 3-25-2	浄土宗の寺で、かつては長泉院雪峰庵と呼ばれており、雪峰大覚という僧が享和二年(1802)に開いた事に由来している。十条の尼寺と呼ばれている。 石畳の参道の右側は石塀が延び墓地を隔てている。二階建ての本堂の下には「願・宝・悲・憧・王・賀」を表わす金剛六地藏が並んでいる。

姥ヶ橋延命地藏尊	北区上十条 4-12-4	姥ヶ橋とは石神井川の支流で、農業用水として利用されていた稲付川に架かっていた橋の名称台座には「享宝九年申辰天十一月吉日石橋供養」の銘文が刻まれている。この地藏尊は2つの道が出会う地点にあるため「出合地藏」とも呼ばれている。 毎年8月24日には縁日があり、多くの人で賑わっている。
御嶽神社	北区上十条 5-8	町会に属する小さな神社。昔の集落の出入り口付近に魔除けの目的で小さな神社が祀られた。もとの位置からは移転している。
地福寺	北区中十条 2-1-20	岩槻街道沿いにある寺で、門前左には、6体の地藏尊があり、一番左の地藏が古来から「鎌倉街道の地藏様」と呼ばれている。参道はかつての王子の名産であったお茶栽培の名残をとどめる「お茶垣の参道」となっている。また、境内には「四国八十八ヶ所お砂踏み」と「母娘遍路像」がある他、ハンセン病救済事業の草分けとなった貞明皇后の彫像がある。
富士神社	北区中十条 2-14-18	十条地域の人々が江戸時代より、富士講に基づく祭儀を行った場所、「お富士さん」として古くから親しまれている。 毎年6月30日・7月1日に大祭を催す。 縁日もたくさん出てにぎわい、昔から浴衣を着た参拝者で賑わう。
真光寺	北区中十条 3-1-5	真言宗で隆照山桂徳院と称し、境内には六角堂があり、本尊の勢至菩薩像が安置されている。
西音寺	北区中十条 3-27-10	真言宗智山派で、無量山竜谷院と称する。本尊は不動明王。しかし現在檀家以外は立ち入り禁止となっている。門内右手の宝きょう院塔には延享五年武州豊嶋郡十条村と彫られている。 門前には延命地藏尊と六地藏塔があり、それには宝暦二年建立とあり、阿弥陀三尊と六地藏が浮き彫りにされている。 ここには「下り松」という名木があり、三代將軍家光の日光社参の折、この寺院で休む度、その松の下から辺りを眺望したと言われているが、明治元年に落雷にあい、枯死した。
日枝神社	北区十条仲原 2-6	祭神に大山咋命を祀り、社殿には「山王大権現」と記している『王子町誌』に元禄二年(1690)創建とある。十条村の鎮守は王子神社だが、その祭礼の8月13日に同時に祭礼をしたという。境内に延宝四年(1678)の庚申塔を納めた祠がある。『北区ニュース』に「区内石造文化」の表題で区内の石仏類が紹介されたのがきっかけとなり昭和50年(1974)に土地の有志によって昭和初年以來途絶えていた庚申講が復活した。
王子神社	北区王子本町 1-1-12	王子神社は中世に熊野信仰の拠点となった神社である。王子村は古くは岸村といったが、紀州熊野三所若一王子が勧請され、王子村と改められた。 非常に高い格式を持つ神社で、最盛期には飛鳥山も支配地としていた。北区指定無形民俗文化財民俗芸能「王子田楽」を奉納する8月第1日曜日の礼大祭や、12月の熊手市などの風物詩をはじめ、天然記念物として東京都指定文化財となった大イチョウ、理容業界の神様とされる関神社と毛塚がある。
王子稻荷神社	北区岸町 1-12-26	関東稻荷総社の格式を持ち、江戸時代より庶民に親しまれてきた。 社殿の裏手には、願い事を唱え、持ち上げて持ち上がるかどうかで、願いが成就するかどうかかわかるとされる「御石様」がある、崖下には神狐の出てくる穴とされる場所がある。 また、毎年2月の午の日に開かれる凧市(10:00-18:00)は、たびたび大火にみまわれた江戸庶民たちが「凧は風を切る」として火事除けの縁起をかつぎ、「火防(ひぶせ)の凧守」をいただく人々に今も親しまれている。境内には縁日開かれ賑わう。 <額面着色鬼女図 絵馬公開> 国認定重要美術品額面着色鬼女図、谷文晁の龍図を所蔵しており、1月1～3日と2月の午の日(10:00-16:00)に公開される。12月31日の夜(23:00-0:30)、には地元の人々の催す「王子狐の行列」が新しい風物詩となっている。姉妹社の装束稻荷神社より、狐のお面や装束を身につけた人々が行列する。

金輪寺	北区岸町 1-12-22	明治維新まで王子権現の別当寺とし金輪寺が位置したが廃仏稀釈により大部分が廃寺となり現在に至る。
装束稲荷神社	北区王子 2-30-13	大晦日には関東一円の狐が榎のもとに集まり装束を整え、近くの王子稲荷神社へ初詣をしたという伝説があり、広重（ひろしげ）の浮世絵にも描かれている。 大晦日の 23 時より行列が出発する。人々は狐の化粧をしたり、狐の面をかぶる。行列には和装する。現在は装束榎は現存しないが、榎のあったそばに装束稲荷神社と装束榎の碑がある。
正受院	北区滝野川 2-49-5	石神井川から不動明王をすくい上げ本尊とした事が、寺開創の由来とされている。 寺に胎児の納骨堂を作った。このため、「赤ちゃん寺」としてよく知られている。
金剛寺	北区滝野川 3-88-17	徳川八代將軍吉宗によって、石神井川流域にカエデが植えられ名所となった事から「もみじ寺」とも呼ばれている。境内には、七福神の石造が置かれている。
寿徳寺	北区滝野川 4-22-2	『板橋駅前の新撰組局長「近藤勇の墓」は寿徳寺の境外墓地である。命日の 4 月 25 日または直前の日曜日に、墓前供養を毎年行い多くの参拝者が集まる。新編武蔵風土記稿』に寿福寺と記されているが、誤りとおもわれる。加賀前田侯下屋敷地図にも寿福寺とあるのでその辺が間違いの原因かと思われる。
滝野川八幡神社	北区滝野川 5-26-15	創建：建仁 2 年とも言われるが鎌倉初期の文治 2 年源頼朝の寄進によるとも言われる。滝野川村の総鎮守。社務初は、戦前は滝野川三軒家の種卸し業の会合場として利用され滝野川人参や練馬大根などの野菜の種子の競り市が開かれていた。例大祭は 9 月 15 日前後の土・日。
子易神社	板橋区板橋 2-19	御祭神木花開耶姫命。 境内地が延宝二（1674）年の水帳に記載されており、創建はこれ以前と思われる。 江戸時代は、社号を子安宮または子安明神とも称し、安産・子育ての神として信仰を集めた。近くの福生寺が別当であったが、明治初年神仏分離により子易神社と改称した。 神社の入口にある「身替り地蔵」は、元禄八年（1695）造立されたもので、もと神社の裏手（現家内窪保育園の地）にあった。台座に「右上尾」「左河越」と刻まれ、道標でもあった。 この地蔵は「胸突き地蔵」とも呼ばれている。
東光寺	板橋区板橋 4-13-8	開山は芝増上寺等五世天誉了開上人により、浄土宗に属し、丹船山薬王樹院東光寺という。江戸初期まで、船山という地（現、東板橋体育館辺り）にあったが、前田家下屋敷開設（延宝 7 年）のため現地に移転。前田家にゆかりのある戦国武将宇喜田秀家の墓がある。 秀家は関ヶ原の戦いで徳川方に敗れた後捕らえられ、八丈島へ流されてそこで亡くなった。秀家の妻は加賀藩主前田家の出であった。赦免になる迄ずっと前田家からの援助があり、明治に入り、一緒に島へ送られた家来たちの子孫も含めて、子孫達が東京へ戻った折、ゆかりの前田家によって、下屋敷のある板橋の地に迎えられ、その下屋敷にこの墓を建てた。 ここには平尾追分にあった大地蔵もこの墓の隣にあり、更にその隣に、四体の庚申塔がある。板橋区最大の庚申塔があり、区有形文化財に指定されている。
観明寺	板橋区 3-25-1	真言宗豊山派如意山と号す。本尊は正観世音菩薩。 明治 6 年、当時の住職が板橋宿に活気を取り戻そうと成田山新勝寺から不動尊の分身を勧請し縁日を開いたため、この寺の前の通りの旧中山道を不動通りという。出世不動として親しまれている。 国道 17 号線と旧中山道の交差点を、仲宿方面に行くと右側にあり入口のすぐ左側の庚申塔は、都内最古のものである。

東京家政大学を核とした北・板橋区の快適な生活空間を支援するための実践的研究（Ⅰ）

文殊院	板橋区仲宿 28	真言宗豊山派の寺で番場山大聖堂と号す。 御本尊の文殊菩薩は、作者不詳だが室町時代の末期の作とされる檜寄木造りである。 この御本尊は区の文化財に指定されている。
遍照寺	板橋区仲宿 40-7	江戸時代は大日山と号し、区内内唯一の天台宗寺院であったが明治4年廃寺となった。その後明治14年旭不動冥と称して成田山新栄講の道場となり、昭和22年真言宗寺院として復活、現在は成田山新勝寺末寺となっている。 境内は宿場時代の馬つなぎ場で、幕府公用の伝馬に使う囲馬、公文書伝達用の立馬、普通継立などがつながれている。境内にまつられる寛政10年（1798）建立の馬頭観音と宿場馬を精巧に模倣した駅馬模型にそのなごりをとどめるのみである。 堂内には上宿の居住した町絵師柴左一の画いた明治期の板橋遊郭千代本楼遊女道中の扁額が納められている。
縁切榎	板橋区本町 18	江戸時代、夫に虐げられた妻は、離縁したくとも簡単には出来なかった。そんな時にこの榎に願をかけ、榎の樹皮をけずって持ち帰り、そっと煎じて飲ませると、不思議に夫から離婚話が持ち出される…という悲運な女性の榎詣りが流行し、この板橋宿の名所となっていた。 幕末皇女和宮が、中山道を下って將軍家茂に降嫁する時は、この前を通らず回り道をした、という話もあるが、庶民の間では、悪縁は切ってくれるが良縁は結んでくれるということで礼拝の対象となっていた。4月23日（日）10時双葉町氷川神社の宮司による奉賛式が行なわれる。
馬頭観音	上十条 1-10	この馬頭観音は大正10年にその当時のお堂を改築した。 この馬頭観音を祀る縁日は江戸末期から明治初年頃まで続いていたが時勢の変動で中断した。その後、お堂改築の際、一時縁日が再開されたが戦争によって再び中断され、そのまま現在に至っている。 当時、縁日は毎月9日と19日に行われていた。
氷川神社	豊島区池袋本町 3-14	池袋本町の氷川神社にある富士塚は明治45年（1912）に作られた。塚の高さは約5mで、表面は富士山の黒ボク石（溶岩塊）で覆われている。頂上までジグザグの登山道が造られているが、現在は立入禁止となっている。
氷川神社	板橋区双葉町 43	社伝によると応永年間（1394～1427）に大宮氷川神社から勧請されたと伝えられている。松山氷川大名神と称し旧根付、板橋宿上宿の産土神として崇敬された。 相殿として祀られている蒼稻魂命は、もと下板橋稻荷台の新掘山に鎮座していた新堀稻荷社で、板橋城廃城後、太田道灌の家臣新堀氏がこの地で奉斎したもの。下って、明治40年合祀令によって氷川神社に合祀された。
宗仙寺	板橋区板橋 2-20-14	
照伝寺	板橋区仲宿 11-8	
智静寺	板橋区大和町 37-1	藤吉稻荷 板橋家累代の墓
即得寺	板橋区双葉町 23-4	
清水稻荷神社	板橋区宮本町 54-1	創立年代不詳。『遊歴雑記』に「老親飲めば美酒、その子飲む時は清水なり、彼地を呼んで酒泉潤といい、後に清水村とあらためけるとなむ」とある。当時一丈ばかりの高台に祀られていた小祠が、当稻荷神社であり、後世、中山道の支道の当地に移転され、古来清水村の鎮守として尊崇を集め伝統を守って今日に至る。

表3 歴史的建造物

北区中央公園文化センター	北区十条台 1-2-1	<p>戦前の陸軍東京第一造兵廠（兵器工場）の本部として昭和5年に建設された。</p> <p>戦後、造兵廠の一部は米軍に接收され、建物も米軍施設として使用され、ベトナム戦争時には、野戦病院として使用されたため、これに抗議する反戦派がベトナム戦争の停戦を訴えてデモ行進をした。昭和46年に区をあげての返還運動と多くの人々の努力が実り、日本に返還された。現在は文化センター兼図書館として使用されている。</p>
十条中学校の外壁	北区十条台 1-9-33	<p>東京第一陸軍造兵廠十条工場時代の赤レンガをコンクリートで覆い、校庭の壁へ転用された。</p>
南橋トンネル	北区岸町 2-1-11	<p>陸軍があつたころは、下を軍用鉄道が通っており、国鉄線を越えて板橋火薬製造所の王子工場と十条兵器製造所を結んでいた。</p>
愛誠病院	板橋区加賀 1-3-1	<p>東京第二陸軍造兵廠板橋製造所の建物を使っていた。</p> <p>家政大内にもおなじつくりの建物がある（山吹寮＝東京家政大学58号棟）</p>
旧三菱銀行滝野川支店	北区滝野川 6-8-8	<p>大正3年建築。</p> <p>古典主義調で格式を感じさせるデザイン。</p> <p>現在は銀行の資材置き場として利用されている。</p>
旧醸造試験場	北区滝野川 2-6	<p>明治37年建設。</p> <p>当時の洋風建築の趣を残すレンガ造りの建物であった。</p> <p>醸造試験所は、醸造酒の製造技術の開発や市販酒の鑑定を行う機関であった。</p> <p>内部は、湿度調整を行う黒カビが、アルコールを食べ、貯蔵庫の一面に繁殖していた。</p>
東京第一陸軍造兵廠十条工場跡地 275号棟	北区十条台 1-4	<p>東京第一陸軍造兵廠十条工場として明治38年に建設され、銃弾、無線機、火具などの兵器が生産されていた。この辺り一帯は戦後自衛隊の駐屯地を始め、団地、学校、公園などに変身を遂げたが、この建物があるエリアだけは北区へ譲渡された。今後この土地に新たな中央図書館を建設し、平成20年に開館予定だが、この建物が完全な形で残るか否かはわからない。</p>
旧陸軍第二造兵廠建物（現東京家政大学58号棟）	板橋区加賀 1-18-1	<p>東京家政大学は旧陸軍第二造兵廠の跡地に移転してきたため、敷地内には多くの旧陸軍の建物があつたが現在は3棟を残すのみである。この建物は参謀本部測量局明治42年版の地図に記載が認められる建物で、第二造兵廠がまだ火薬製造所であった時代の建物と考えられる。これが確認できれば、3棟の内でも最も古い明治建築となる。</p> <p>建物は煉瓦造平屋で屋根は鉄骨トラスの上に木造と考えられる。移転後しばらくは学生寮として使われていたが、現在は職員の控え室として使用されている。外観は良く当時の姿を留めている。内部は改造が著しく当時の様子を伺うことはできないが、一部には厚さ50cm以上にも及び頑丈な壁やアーチ状の開口部が認められる。</p>
赤羽カトリック教会	北区赤羽 2-1-12	<p>東京都の最北の町・赤羽にとけ込み、現在では北区の景観百選にも選ばれ周辺の人々からも親しまれている。“アンジェラの鐘”の音が、ゴシック建築の美しい尖塔をバックに流れていく。教会堂守護の聖人は被昇天の聖母。マリア様の御像が聖堂表上部と敷地内幼稚園グラウンドの一角に置かれている。ゼノ修道士がこの教会でも活動されていた。ゼノさんは1930年、聖母マリアに特別に忠実に従う信者の運動団体「聖母の騎士信心会」を創立し、最後は身代わりとなってアウシュビッツに殉教されたコルベ神父とともに長崎に労働修道士として来日、アリの町などで人道的、献身的な奉仕活動を行なった修道士である。</p>

表 4 無形文化財

富士神社の山開き大祭	北区中十条2-14 周辺	6月30日の宵宮と7月1日の山開きの祭礼が催され、お富士さんとして地元で親しまれている。有形民俗文化財であり、文化財説明板が立っている。
王子田楽	王子本町1-1-12 周辺 北区飛鳥山博物館	毎年8月第一日曜日に行なわれる王子神社の例大祭最終日の午後王子神社周辺で開催。田楽の姿をよく残していると言われている。境内の仮設舞台上、地域の子供たちが躍り手となって復活された王子田楽が執り行われている。無形民俗文化財（民俗芸能）
搦唄 附 餅搦	赤羽西 2-15 道観山正一位稻荷神社 地内	稲付の餅搦唄は、毎年2月の初午の日に、赤羽西2丁目に所在する道観山稲荷社で行われる餅搦ぎの際に唄われる。唄は餅を練る時に唄う「稲付千本杵餅練唄」と餅を搦ぐ時に唄う「稲付千本杵餅搦唄」があり、もともとは、この地域の人々がお祝いの餅を搦ぐ時に唄われていたものであった。餅搦ぎは、3人ないし4人が臼を囲んで、唄に合わせて時計周りに周りながら小ぶりな杵を交互に振り下ろし餅を搦ぐ。最後に仕上げ搦ぎをして搦ぎあがった餅は参列した人たちにふるまわれる。無形民俗文化財（民俗芸能）。
白酒祭	志茂 4-19-1	熊野神社境内で行われる「白酒祭」は、大きく「鬼」と書かれた的に弓矢を射てその年の厄を払う行事。もともとは正月7日の行事として行われていたが、現在は毎年2月7日に行われている。祭りの名前は、この行事に合わせて白酒を造り、祭礼日にふるまったことに由来する。弓を射るときは最初の一本を捨て矢として、わざと的からはずす慣わしになっている。以前は、行事で使う弓と矢は竹と桃の木で毎年自作し、終わった後に縁起物として持ち帰っていたが、現在は既成のものを使っている。また、白酒ではなく甘酒などがふるまわれる。北区指定無形民俗文化財（風俗慣習）。
徳丸北野神社田遊び	板橋区徳丸 6-34-3	五穀豊穡と子孫繁栄を祈願し神に奉納する行事で、国の重要無形民俗文化財。 稲作の作業内容を唱える言葉と所作を田の神に奉納し、豊作を祈願する予祝の祭り2月11日午後6時から2時間程度行なわれる。「種まき」太鼓の音やはやしうたの調子に合わせて、四方に向かって種をまく。「胴上げ」子供が扮する早乙女を一人づつ順番に太鼓に乗せ、胴上げる。 苗の成熟と子供の成長、子孫繁栄を祈願する。「稲むら積み」太鼓の上に田遊びの用具一切を積上げて、みんなで手を添えて、稲むらを褒める。
赤塚諏訪神社田遊び	板橋区大門 11-1	2月13日午後7時から2時間程度行なわれる、国の重要無形民俗文化財。 「神輿渡御」御魂の移った神輿を担いで入場し、田遊びが始まる。「槍突き」色紙が詰められた花籠を取付けた槍の前で、太鼓に合わせて獅子が舞う。「天狗御鈴の舞」狩袴を着た天狗が右手に大きな幣、左手に錫杖を持って、これから地鎮の舞を踊る。 境内では旧年中の災厄や不幸を焼き払い、新年の家内安全と子孫繁栄を祈って、どんど焼きが行われる。
神明ばやし	板橋区南常盤台 2-4	旧上板橋村の産土神としてお祀りされ、天照大御神を奉斎する天祖神社内で行なわれる。例祭日は9月21日板橋区無形文化財指定。

表5 美術館・博物館

紙の博物館	北区王子 1-1-3 飛鳥山公園内	昭和 25 年、旧王子製紙(株)の収蔵資料をベースに、わが国の洋紙発祥の地である東京北区王子に財団法人として設立され、以来紙に関する古今東西の資料を幅広く収集、保存、展示し、教育普及活動をおこなってきた。紙をテーマとする紙専門博物館。平成 17 年で開館 55 年を迎えた。和紙を素材とした各種紙工芸品の手づくり講習会にも参加できる。 現在の資源・環境・リサイクルなど、学校教育でとりあげられている“紙”をめぐる今日的テーマについても活動している。
自然ふれあい情報館	北区十条仲原 4-2-1 清水坂公園内	清水坂公園内にあり、区内四河川に生息する魚類や、北区の自然を題材としたパネル、「生物の目から見た北区の自然」と題した映像などを展示している。 隣接する自然観察園にカメラを設置し、野鳥や昆虫、植物などを観察することができる。また、自然環境により興味を持てるように、1 年を通して下記のような教室を開催している。 公園あたりは貝塚遺跡。『北区の坂道』 植物画教室(身近な野草を水彩画で描きます)……………6 月頃 昆虫観察教室(身近な昆虫を観察します)……………8 月頃 自然写真撮影教室(写真を撮ることを通じて自然観察!) 9 月頃 秋に鳴く虫観察教室(秋の虫の声を聴きます)……………10 月頃 野鳥観察会(バードウォッチング)……………1 月頃 バードカーピング教室(野鳥の彫刻をします)……………2 月頃 上記の他に、「子どもの環境教室」が様々なテーマで年に 12 回行われる。
渋谷史料館	北区西ヶ原 2-16-1	日本の近代経済社会の基礎を築き、生涯「道徳経済合一説」を唱え、実業界のみならず社会公共事業、国際交流の面においても指導的役割を果たした渋沢栄一[1840(天保 11)～1931(昭和 6)年]の全生涯にわたる 資料を収蔵、展示。隣接する旧渋沢庭園は旧渋沢邸の一部で、国の「重要文化財」に指定された大正期の 2 つの建物、「晩香廬」と「青淵文庫」が庭園とともに当時のままの姿で残っている。
飛鳥山博物館	北区王子 1-1- 3 飛鳥山公園内	歴史的にも自然環境的にも恵まれた北区を、「大地、水、人」を基本的なコンセプトとして、テーマごとに展示することなどにより、郷土の文化とふれあう橋渡しとなるように展示を構成している。
東京ゲート記念館	西ヶ原 2-30-1	ゲートに関する記念館で作品などの資料が 15 万点収蔵されている。記念館の前の道は「ゲートの小径」と呼ばれている。内容は世界トップクラス。入場は無料だが、土日祝祭日は休館。
十条野鳥の森緑地	北区上十条 1-22-30	十条野鳥の森緑地は、最勝院という京都から移築した建物があった個人所有の庭を区が整備し、平成 8 年 4 月に開園した公園です。総面積約 1,000 平米の内、約 400 平米を人の立ち入りができないバードサンクチュアリ(野鳥の聖域)とし、巣箱などを設置している。キジバトやシジュウカラなど、四季を通じて多くの野鳥が見られる。公園の管理は、地元の町会・老人会の方々によって行われている。
ARA	北区志茂 5-41-1	国土交通省 荒川下流河川事務所
地震の科学館	北区西ヶ原 2-1-6	大地震に備えて防災の拠点となる北区防災センターの 1 階。昨今とりわけ関心の高まっている地震に対する知識、対策についての展示の他、震度 7 の地震、煙の恐ろしさ、地震の際に役立つ訓練などの体験コーナーもある。
板橋区立美術館	板橋区赤塚 5-34-27	昭和 54 年 5 月、東京都 23 区内初の区立美術館として開設された。収蔵品は、江戸狩野派を中心とした江戸時代の古美術から、大正から昭和前期までの前衛美術作品、また、池袋アトリエ村や区内ゆかりの作家などの作品を収蔵している。アトリエ、講義室を利用して区民の方や子どもたちを対象にした各種美術教室、講座を開催している。付近には区立郷土資料館・区立赤塚植物園などの施設の他、「江戸名所絵図」にも描かれている松月院や東京大仏で有名な乗蓮寺、赤塚城址などの史跡も多く、手頃な散歩コースとなっている。

東京家政大学を核とした北・板橋区の快適な生活空間を支援するための実践的研究（Ⅰ）

板橋区立郷土資料館	板橋区赤塚 5-35-25	昭和 47 年 7 月に開設され、板橋地域の歴史と生活及び文化に関する資料の収集・保管して展示している。
板橋区立教育科学館	板橋区常盤台 4-14-1	広く科学に関する知識の普及・啓発を推進し、科学情報・教育情報を積極的に収集し、学校教育・社会教育の一層の充実に貢献することを目的として設立された。 身近な日常生活の中の科学をテーマに、エネルギー・交通・通信・災害・からだの 5 分野の体験型常設展示があり、誰でも気軽に楽しく利用できる。 プラネタリウムは夏休み・春休み・冬休みは投影時間が変更になる。
昆虫公園	板橋区徳丸 3-37-9	崖地の雑木林の中にある、小さな公園。プレハブの管理舎の中に標本室がある。また、蝶舎、森の昆虫舎、水槽の昆虫舎と、小さな展示室がある。
赤塚植物園		武蔵野の面影を色濃く残す、赤塚の丘陵地を活用した植物園。四季の道、野草の道、針葉樹の森などのコーナーに分けて植えてある本園と万葉・薬用園からなる。芳香のある花木を植え、点字の説明板をつけた香りの散歩道もある。また、万葉・薬用園には、万葉集に詠まれた植物、薬用植物が植えてある。管理舎には、植物に関する相談室や図書室がある。
教育科学館	板橋区常盤台 4-14-1	科学展示館、プラネタリウムがある。
郷土資料館	板橋区赤塚 5-35-25	急速に失われつつある板橋の農村文化関係資料及び埋蔵文化資料を収集、保管するために設立された。東京の最大であった穀倉地帯、徳丸・赤塚田んぼ関係の農機具が充実しており、加えて発掘調査による遺跡の出土品も多く展示・保存されている。
区民農園	板橋区赤塚 6-38-1	区が板橋区内の農地を借り、その土地を区民が家庭菜園として借りることが出来る。児童福祉施設等を対象にした団体農園もある。
植村冒険館	板橋区蓮根 2-21-5	冒険家・植村直己の業績を紹介する企画展をはじめ、彼の冒険精神を永く伝えていく事業を行っている。
子ども動物園	板橋 33-50（東板橋公園内）	ヤギやヒツジなどが放し飼いにされ、一角にはモルモットを抱っこできるコーナーもある。子どもたちには、ポニーの乗馬体験もできる。

表6 商業施設

十条銀座商店街		加盟店約200店を誇る、北区では最大規模の商店街で、それとつながる十条富士見銀座商店街とともにマスコミにもよく取り上げられている。品揃え・安さにも定評がある。
富士見銀座商店街		商店街に活気を呼んでいる事業は、何といたっても北区商店街ルネッサンス事業の中に取込んだ『一店逸品・逸サービス運動』。十条銀座商店街との共存を図る無借金商店街である。
北とびあ	北区王子1-11-1	北区の産業の発展と区民の文化水準の高揚を目的として建設された北区のシンボルです。館内には多彩な施設をもち、ホール、各種会議室、研修室、音楽スタジオ、トレーニングルーム、さらに産業情報センターや消費生活センターが整った、産業と文化の拠点です。最上階の17階は展望ロビー。
十条台パノラマプール	北区中十条1-5-6	ガラス張りの開閉式ドームのある開放感あふれる温水プール。外観もコンクリート打放し部分とドーム部分の異質な素材の調和が見事。 内部は室内プールでありながら自然光がふんだんに入り、陽射しを反射して光る中を泳ぐことができる。学校の利用時間をのぞく、9:00～21:00に開放。料金は2時間400円。
小山酒造	北区岩淵町26-10	現在では東京23区唯一の酒蔵として酒造りを続けている。秩父山系の浦和水脈からの良質な伏流水を、地下130メートルから汲み上げた仕込み水。以前は門の所に井戸水の水道があった。丸真正宗を作っている。社長は早稲田大学の元学長さん。
春駒交通本社	北区浮間5-11-15	本社建物は北区の景観百選に認定された。
なとり	北区王子5-5-1	株式会社なとりは、「おつまみコンセプト」にもとづく、食品メーカー。
鳥新	板橋区仲宿39-3	創業明治28年という歴史の中で培ったノウハウを基に国内は勿論のこと、世界各地に張りめぐらせた集荷網を通じて、世界の「美味」「珠味」「こだわりの逸品」を扱っている。
赤羽西口七福神		赤羽駅西口駅前のバルロード2（ビビオの街区）と、バルロード3（イトーヨーカ堂の街区）の間に挟まれた歩道沿いには、七福神のモニュメントがある。赤羽西口再開発地区の商店の繁栄を願い、近くにある亀ヶ池弁財天に因んで、平成7年に設置された。これらの像は、アメリカ人彫刻家D.O.フリーマンの作品。小型だがとても可愛い動きの感じられる作品。
国立スポーツ科学センター	北区西が丘3-15-1	我が国のスポーツの国際競技力の向上を目的とした、スポーツ医・科学・情報の中核機関としてトップアスリートをサポートしている。スポーツ科学研究部、スポーツ医学研究部、スポーツ情報研究部、運営部という4つの部から構成され近代的な設備により、オリンピック初め国際試合で成果を上げている。
仲宿商店街		旧中山道の板橋区役所前辺りから石神井川に架かる「板橋」間で「板橋新道石碑」「板橋宿本陣跡」「脇本陣跡」「板橋七福神」などがある。
新中山道商店街		新板橋駅を中心として仲宿商店街へ続くまだ開発中の商店街。
茶の間	板橋区大山東町遊座大山商店街	地元産の野菜を使った「板橋小鉢」など、地産地消を意識した「エコ」「ヘルシー」が売り物。店のロゴデザインやインテリアも学生の手作りで、それぞれの専門を生かした発表の場にもなっている家政大学生が働くレストラン。実際に店を切り盛りするのは、栄養学科4年で常駐スタッフの2人を中心とした学生たちだ。約50人でシフトを組み、家政大職員の栄養士が食品衛生責任者を務める。 商店街の振興組合が区、都から補助を受けて開店、大学と協力して運営する。

表7 街道・河川等

板橋	板橋区仲宿 49	江戸日本橋を起点とした中山道は、本郷森川追分で岩槻街道と分かれ巢鴨を通り板橋が初宿となる。 この板橋宿は東海道・品川宿、日光街道・千住宿、甲州街道・内藤新宿と ならび江戸四宿のひとつでもあった。巢鴨方面から、平尾宿（現在の板橋1丁目～3丁目）、中宿（現在の中宿）上宿（現在の本町）と三つの宿場に分かれ、中宿と上宿との境には石神井川が流れ、区の名前ともなった板橋がかかっており平尾追分では川越街道が分岐していた。日本橋より2里25町33軒、旧中山道と石神井川の交わるところにある。 板橋区の由来となったといわれる板橋は、江戸名所図会にも画かれている。何回もかけ替えられており、現在の橋は、昭和47年にかかれたもの。欄干に木目を表して、当時の面影を残している。
水川つり掘り公園	板橋区大和町 2	国道17号に架かっている板橋（という橋）の下、氷川神社の裏手。石神井川の河川改良工事の際に、蛇行していた部分を埋め立てて「釣り掘り公園」をつくった。 鯉やフナなどが釣れる。 開園時間 9時～4時（7・8月は8時半～4時半） 利用料：無料
王子新道	板橋区加賀 1-10	仲宿の交差点から東に、北区王子まで通じる道が王子新道で、明治21年（1888）に完成した。 この道は、宿場制度の廃止や、鉄道の発達、板橋宿大火などで疲弊した宿場の人々が、当時の工場街王子へ通勤するために苦勞して開いた府道だという。
石神井川と遊歩道	北区滝野川 5丁目～王子1丁目辺り	石神井川は小平市内の都立小金井公園近くに源を発し、北区堀船で隅田川に合流するまでの総延長25.2キロの河川である。 北区では、音無くぬぎ緑地から王子駅の間約1.5キロにわたり、川の兩岸に遊歩道が整備されています。歩道脇に植えられた桜やツツジ、また、護岸に絡まるツタが、うるおいあふれるさわやかな歩行者空間をつくりあげている。 この遊歩道には、一年を通じて、散策を楽しむ人やジョギングをする人たちの姿が数多く見られる。 かつて蛇行して川が流れていたところには、緑地が数カ所設けられ、人々の憩いの場所として親しまれている。春になると、花が咲き、鯉が泳ぐ、桜並木が水の流れに写る様子も素敵などころである。また、春でなくても気持ちが良いところで、一年中多くの人が散歩を楽しんでいる。
石神井川緑道	板橋区元町 28	旧川筋を利用して造成された公園。桜並木は、加賀溪谷と呼ばれるあたりで終わりとなっている。川の近くまで降りることができ、自然が多いため、子供の良い遊び場である。
音無川親水公園	北区王子本町 1-1-1	音無親水公園は、石神井川の旧流路に整備された公園で、石神井川は、北区付近では、音無川と呼ばれ、古くから景勝の地として親しまれてきた。昭和30年代から始まった河川改修工事で石神井川の流路が変更になり、残された旧流路に「かつての溪流を」ということで音無親水公園が造られた。水は、濾過装置により循環水を使用夏は子どもの恰好の水遊び場。
紅葉橋	滝野川 2-60 近辺	及び滝野川4丁目1番先。紅葉寺のすぐ近くにある。以前矢ガモでメディアを賑わしたことがある。紅葉もきれいだ、この橋の下はお花見コースにもなっている。
観音橋	板橋区滝野川 4	石神井川に架かる観音橋の北側の坂をのぼると寿徳寺に通じる。
緑橋	板橋区加賀 1-14	加賀福祉園の横にある。桜の時期ここから眺める石神井川は実に見事である。
番場橋	板橋区仲宿	旧中山道の本町商店街から川を少し下ったところにある。
新板橋		石神井川が首都高と交わる辺り
御成橋		帝京大学病院付近。もともとの御成橋ではなく少し移動している。
稲荷橋		帝京大学医学部近辺。桜の花も桜の紅葉も見事。



写真1 縁切り榎奉賛式



写真2 東京家政大学58号棟



東京家政大学周辺マップ

10m 20m

板橋区 北区 豊島区